
10. とまとをつくるわⅡ

おふくろさんとまとの様子と手入れについて



夏の日差しを利用し栽培しなおかつ涼しいとまとのトンネル

逆転の発想の栽培

ここではとまとは頭以上の高さにあり、おふくろさんという袋の中で栽培されています。前述しましたが、おふくろさんとは、それが特殊に工夫された袋でできていて、そのなかに土壌と、カーボン、有機肥料で栽培する技術です。



このようにおふくろさんはが、上からぶら下がるようになっています。移動が可能なので、このままレストランに移動させ、そこで収穫し食べることができます。

おふくろさんで、とまとが生長した様子です。

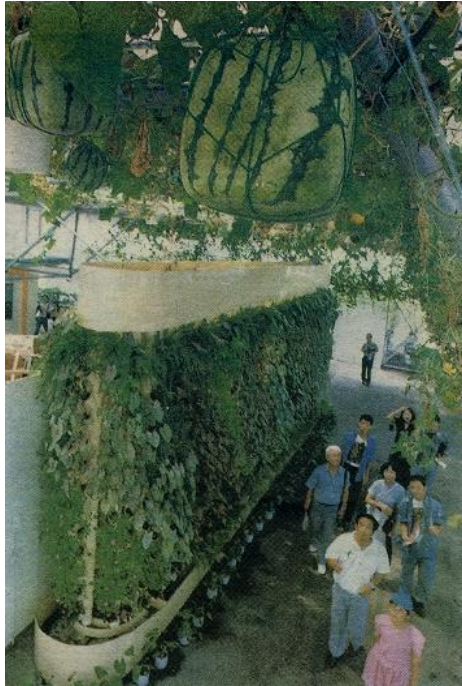


キュウリもこのように、おふくろさんで育てることができます。



野菜の壁・天井

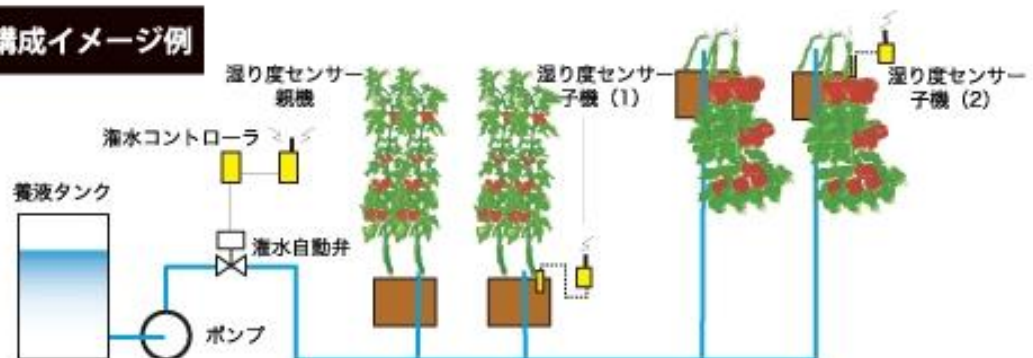
このようにして、我々は、頭の上で野菜を作ることが可能になりました。随分古い写真ですが、情報で四角いスイカが実り、壁は移動式のイチゴが実ります。



移動できるおふくろさんにしろ、壁が動く水耕・土耕栽培にしる、今後の野菜の工業生産の一つの方法と方向を示しています。つまり、狭い空間の利用により、ビル内での野菜の生産が可能になります。

天井の野菜栽培は、夏の省エネ効果もあり、一石二鳥と言えます。

システム構成イメージ例



トマトの1本取り

この技術を応用して、室内や、半屋外といった空間に、大きなとまとを生長させました。この1本の木から、一万数千個のトマトを収穫することができます。



単にとまとを食するだけでなく、そのトマトの香りや、青葉アルコール（後述）が、心をリラックスさせ、心地よくなります。



花のシャンデリア栽培

この写真は、ルクセンブルグでの天井トマト栽培の様子で。羽田元総理大臣も随分若いときですね。



こうして花もシャンデリアのように上から栽培して行きます。写真は、なばなの里（三重県長島町）のベゴネアです。おふくろさんの土壌を、液肥でコントロールしています。人工の管理技術です。



建築と農業のコラボ

このようにしてみると、ひとつの方向性が見えてきます。建築と農業のコラボレーションです。エアードームシステムという工法で建てられた空間の中は、緑でいっぱいの空間になっています。

<世界大蘭博覧会>



1986 年神奈川県川崎市での、第二エアードーム施工という建築を利用した、蘭栽培と融合させた展示パビリオンです。

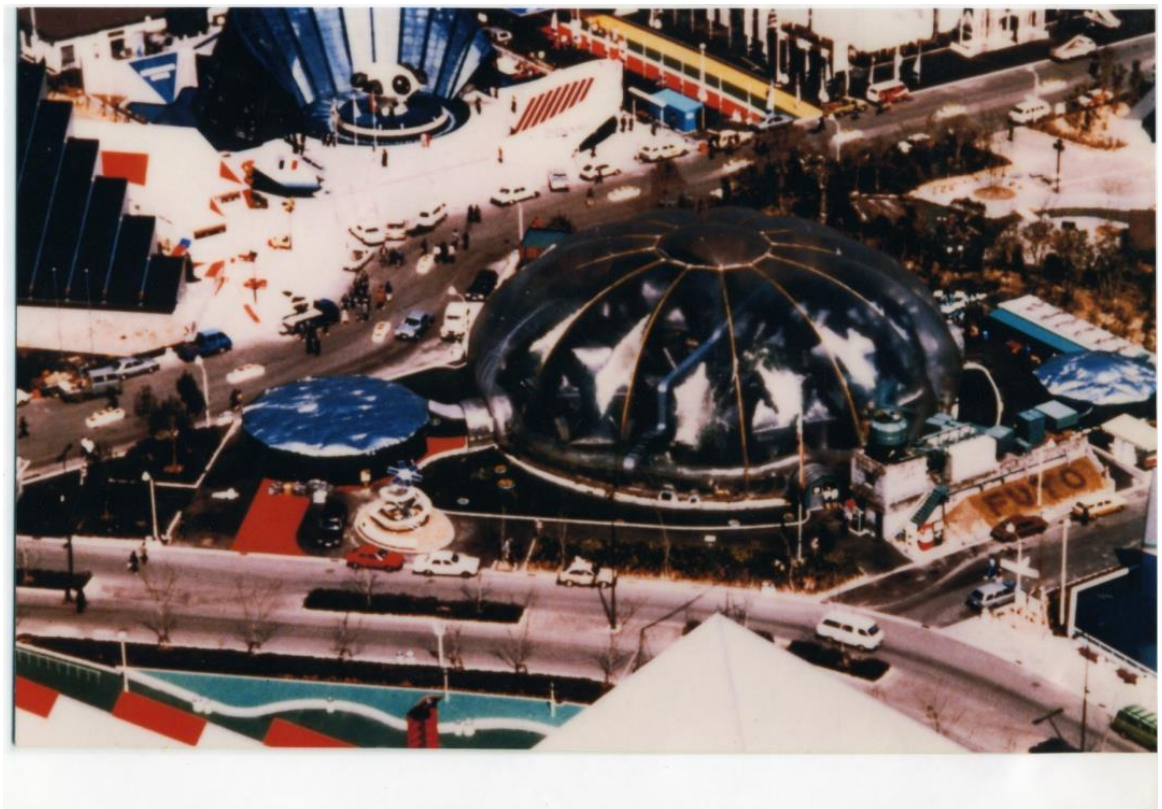


芙蓉グループパビリオンとして、成功された建築物です。網膜構造のエアードーム内を、水耕栽培により緑で埋め尽くし、建築構造物と融合させたものです。

パビリオン内には、熱帯植物、果樹の栽培を行っています。

さらに、そのドーム内に小さなドームをつくり、クレソンを繁茂させ、デザイン的な要素とも融合しています。

<ポートピア81神戸博覧会>





三菱芙蓉グループパビリオン

二重膜シェルター施工

二重膜ビアレストラン屋根施工

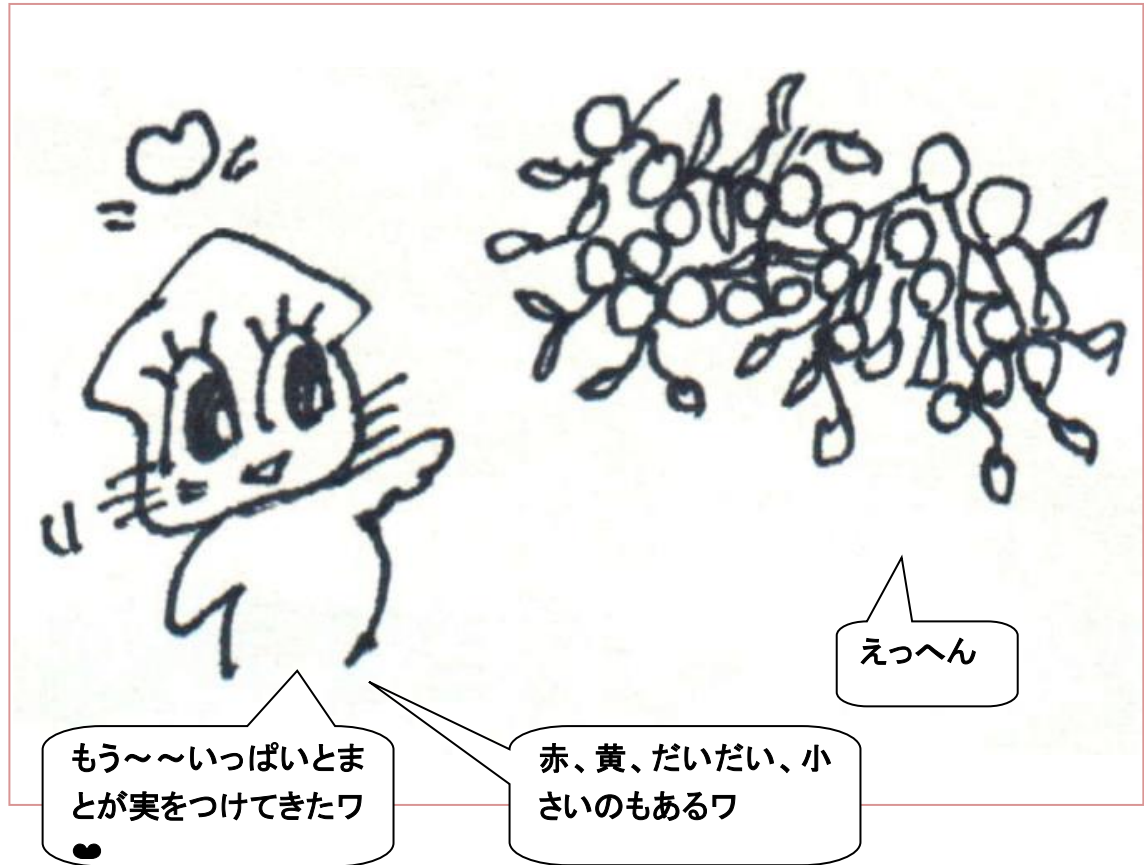
とまとをつくるわⅡ

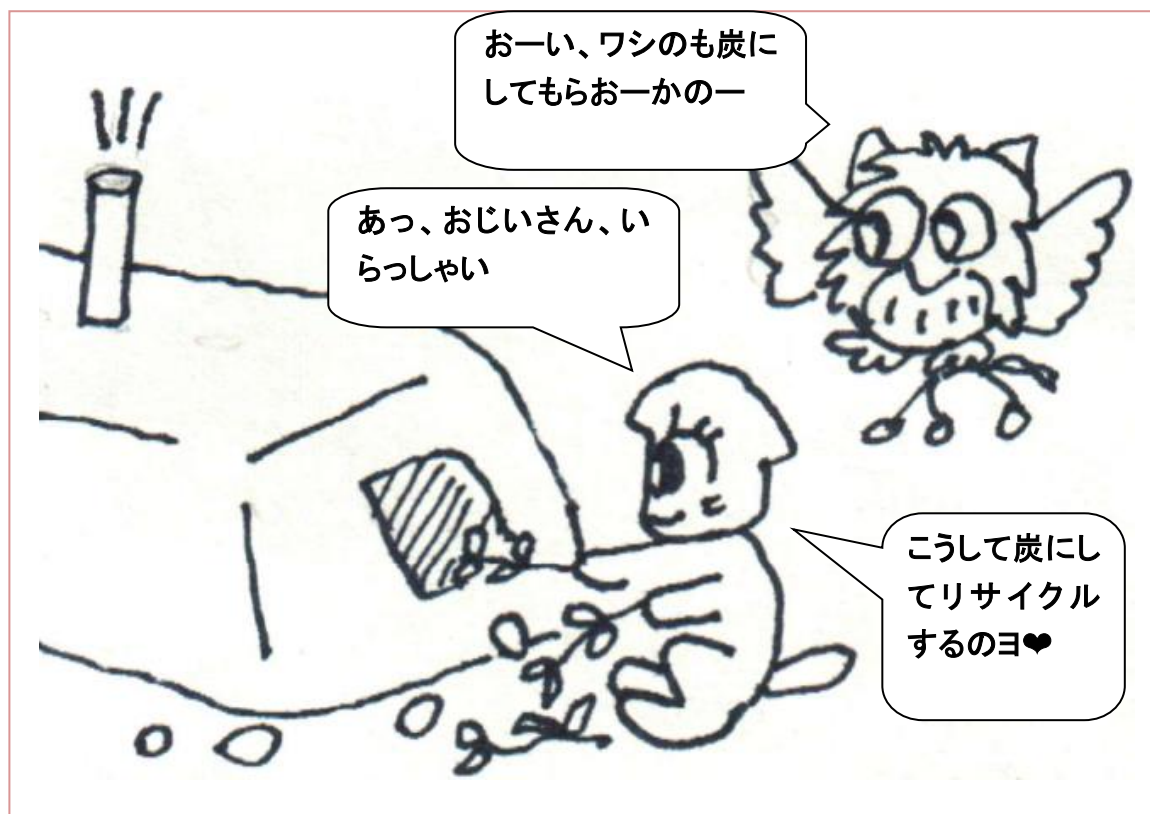
とまとは土に植え育てますが、水耕栽培で、水で育てることも行っています。

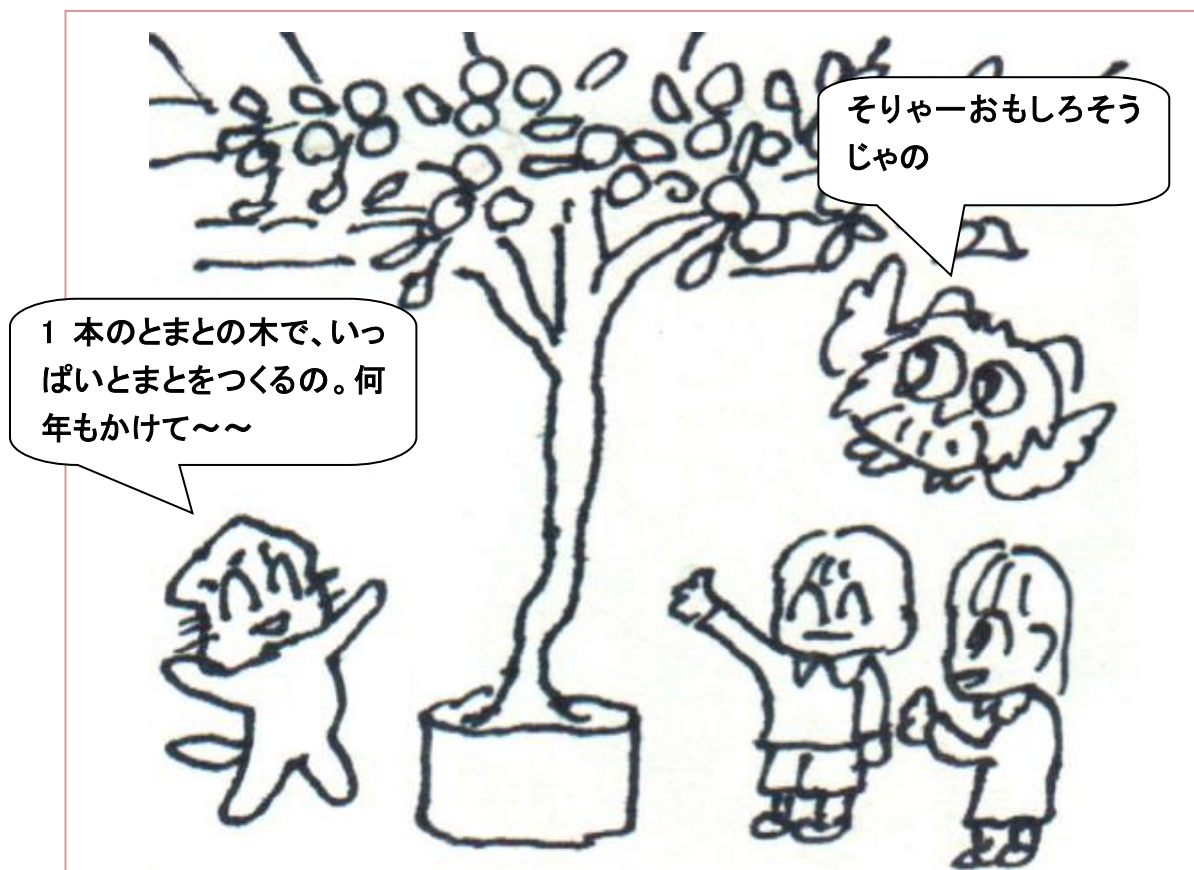
通常、下から茎がでてくることは当たり前ですが、それを支柱で支え、上へ上へ伸ばしていきます。

これに対し、土耕にしろ水耕にしろ、頭より高いところで育てて、下に垂らしていくということも考えられます。それにより支柱を立てることも、支柱にとまとを結わう作業も必要なく、収穫作業も立ち姿でできるなどのメリットがあります。

下からか上からか、どちらも我々行って、研究していますが、そんな逆転の発想も紹介してみたいと思います。







ワシもジャガイモに挑戦して
みるかの～～？じゃが、じゃ
がいもは土の中じゃて、どう
やって見たらいいんかいの



見えるわけない
ニャー

がちゃさん、何か見え
る？



フー～～

ワイ、ワイ